大学生の「和服」に対する意識調査

石川　皓汰（文教大学情報学部メディア表現学科）

1. はじめに

「和服」と聞くと何を思い浮かべるだろうか、袴に振袖、留袖、絣、浴衣…様々な日本の服の種類を想像するだろうか。それとも柄や装飾などを想像するだろうか。はたまた、伝統や文化的なものを連想するだろうか。

時代が進み洋服が主流となった今では「和服」という言葉よりも「着物（kimono)」という言葉が世界的にも浸透しており、多くの人は「和服＝着物」という印象を持っているのではないだろうか。本稿では「和服＝着物」ととらえ考えていくこととする。

「着物」という言葉を辞書で引くと「きもの。着るもの。衣服」と表記されている（精選版 日本国語大辞典の解説より [i]）。つまり「着物」とは「和服」だけを指すのではなく（日本における）着るものの総称である。「和服」という言葉が使われ始めたのは、洋服が入ってきた明治ごろからであり、洋服と区別するために使われるようになったとされている（にほんご日和, 2019[ii]）。

そして、現代において着物は日本の「伝統衣装」であり、「普段着」という認識を持つ人は少なく、「正装」や「特別」といった印象を持つ人が多いのではないだろうか。

近年、着物離れがよく指摘され、着物人口が著しく低下しているとよく聞く。現代における着物は「非日常」の対象として扱われ、京都旅行の際に着物をレンタルし歩き回ることや、祭りの際に浴衣を着る、コスプレなど、正装というよりも特別な場面で着る機会が増えてきているように感じる。

実際、我々が着物に触れる機会はいくつあるだろうか、お宮参りに七五三、入学・卒業、成人、結婚。ここに上げるだけでも着る可能性のある機会は少なくはない。しかし現代において着物を着る人は減っている。

かつて着物は 1.8 兆円規模の産業と呼ばれていたが 2007 年には 4000 億円規模、2019 年現在においては 2875 億円規模にまで衰退している（図 1 より）（有限会社きものと宝飾社, 2016[iii]・2019[iv]）。

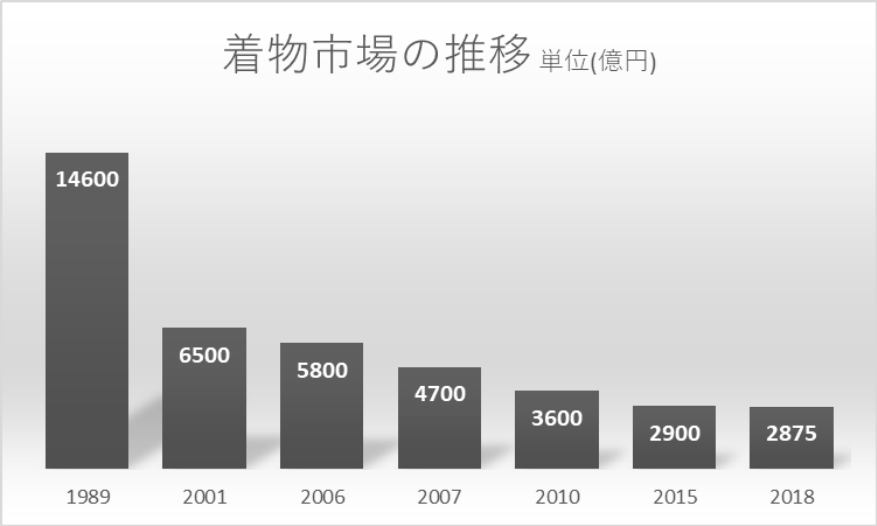
また、着物業界の市場変化について吉田満梨氏（2014）は、「着物関連市場における新たなセグメントとその特性の分析」にて、

> 人々の「着物ばなれ」が言われて久しいが、そうした市場の縮小は自然に起こった訳ではなく、売上数量の減少を高付加価値化・高価格化で補おうとし、着物業界が使用シーンとターゲットを限定してしまったことに起因する部分も大きい（吉田, 2014：p. 81[v]）。

と述べており、ここから現代の着物がなぜ、「手の出しにくいもの」「（値段が）高い」「大人が着るもの」「敷居が高い」「着るのが難しそう」といったイメージがもたれているのかが見えてくる。

そして、実際のところ若者は着物に対してどんなイメージを持っているのか、着物はどんな位置にいるのか、どんな服なのか、いかにすれば着物が身近になるのかを明らかにすることが今回の目的である。

図表１　着物市場の推移



※きものと宝飾社データより作成

本稿では調査結果として、「対象者の属性について」「特別に対する価値観について」「衣服、衣服着用に対する好みについて」「成人式について」「洋服と和服のイメージの違いについて」の６項目にまとめた後に複合検証をし、考察、まとめと進めていく。

2. 調査研究の方法

2-1. 調査研究の経緯

4-7 月　調査テーマ検討/文献などによる情報収集

8-11 月 調査票作成

12 月　　本調査実施

1-2 月　集計・分析

2-2. 調査の概要

2-2-1. 調査目的

大学生における和装に対する意識に関する調査である。「着物離れ」が指摘される現代においてどのようなことが要因になっているのかについて、どうすれば着物に対する関心が生まれるのかについて、身近になるのかを和装を着る機会及び、衣服に関する関心、イメージを中心として調査する。

2-2-2. 調査対象者と方法

調査時期

・2019 年 12 月 6 日、11 日、12 日

調査場所

・文教大学湘南キャンパスで開講されている講義

調査対象者

・文教大学湘南校舎の学生

依頼枚数と回答数

・配布枚数 220 枚　　・有効回答 170 枚

・回収枚数 195 枚　　・有効回答率 87.17%

調査主体

・文教大学情報学部メディア表現学科 3 年石川皓汰

調査方法

・質問紙による自記式の集合調査を授業内にて実施

質問項目

・フェイス項目　　・着用の経験、

・物事への価値観　　・機械、場面

・服装、着物に関するイメージ　　・着物とスーツの対比

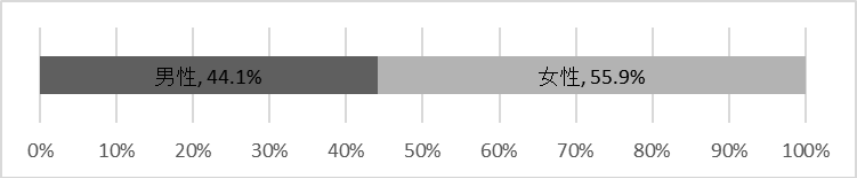
・成人式について

3. 調査結果と考察

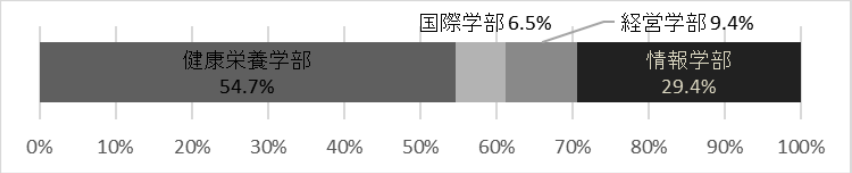
3-1. 回答者の基本属性

今回の調査の特性上、成人式を控える 18～20 歳かつ大学 2 年生までの学生を対象とした。回答者の内訳として「男性」が 6 人（44.1%）、「女性」が 95 人（55.9%）となっている（N=170）。学部は「健康栄養学部」93 人（54.7%）、「国際学部」11 人（6.5%）、「経営学部」16 人（9.4%）、「情報学部」5 人（29.4%）となり、健康栄養学部と情報学部への偏りが出た（N＝170）。年齢は記述式にした結果 18 歳」が 36 人（21.2%）、「19 歳」が 125 人（73.5%）、「20 歳」が 9 人（5.3%）となった（N=170）

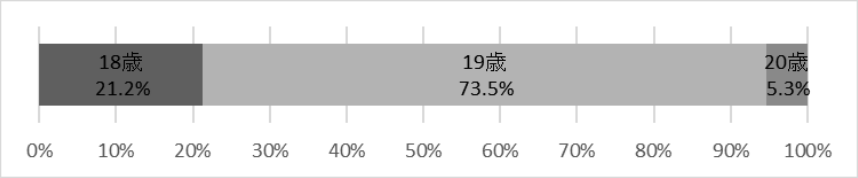
図表 2　性別



図表 3　学部



図表 4　年齢



3-2. 「特別」な行動に対する価値観について

「特別」な行動に対する意識と着物に関する印象などの関係性を調べるため、対象者の特別に対する行動や好みについて 11 項目を「当てはまる、やや当てはまる、どちらでもない、やや当てはまらない、当てはまらない」の 5 段階の SD 法を用いて質問し、それぞれの平均値を算出したところ図表 5 のような結果となった（1.0 に近いほど意識が強い）。

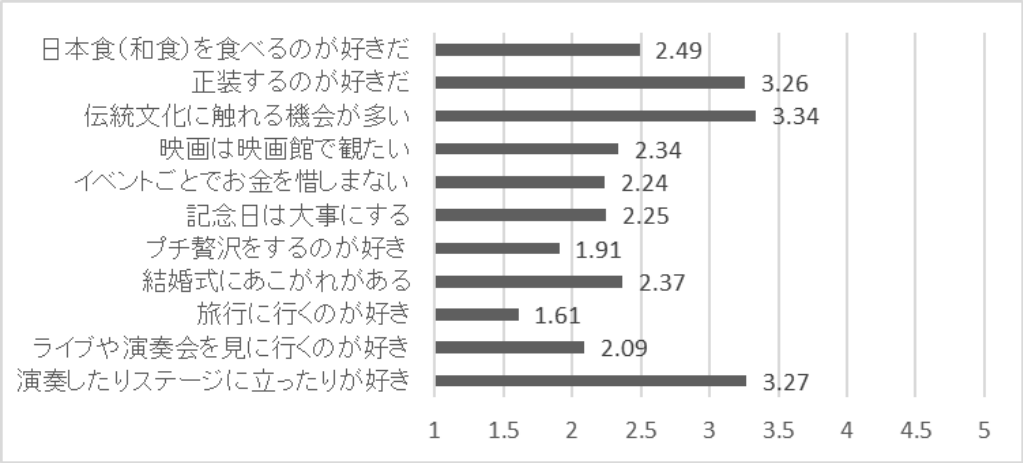
最も強い意識を持たれたのが「旅行に行くのが好き」で 1.61。次に「プチ贅沢をするのが好き」が 1.91 であった。逆に「伝統文化に触れる機会が多い」が 3.34、「演奏したりステージに立ったりするのが好き」が 3.27 と意識が低い結果となった。

次にこの「特別」に対する行動がどのような因子を持つのかを知るためにバリマックス回転を用いて主成分分析による因子分析を行った。その結果、図表 6 のように 4 つの因子に分類するこ

とができた。

第一因子には、「記念日は大事にする」や「イベントごとでお金を惜しまない」といった「特別」に対する『能動的』な価値観が高い因子寄与率で抽出された。第二因子には「伝統文化に触れるのが好き」や「正装をするのが好き」といった『文化的概念』に関するものが抽出された。第三因子には「ライブや演奏会を見に行くのが好き」や「旅行に行くのが好き」といった自分自身ではなく外部に「特別」をもとめる『受動的』な行動に関する因子が見受けられた。第四因子では「映画は映画館で観たい」というもので「特別」は場所によって感じるという因子となった。

図表 5　「特別」な行動に対する意識と着物に関する印象



図表 6　「特別」な行動に対する意識と着物に関する印象の因子分析

	能動的な特別	文化的概念の特別	受動的な特別	場所的な特別
プチ贅沢をするのが好き	.794	-.070	.122	-.056
結婚式にあこがれがある	.791	-.067	.180	-.071
記念日は大事にする	.758	.059	-.038	.138
イベントごとでお金を惜しまない	.421	.220	.311	.332
伝統文化に触れる機会が多い	-.086	.859	-.017	.091
正装するのが好きだ	.131	.837	.057	-.025
日本食（和食）を食べるのが好きだ	-.071	.681	.196	.077
ライブや演奏会を見に行くのが好き	.123	.022	.882	.034
演奏したりステージに立ったりが好き	-.015	.319	.665	-.111
旅行に行くのが好き	.433	-.069	.604	.197
映画は映画館で観たい	.006	.069	-.003	.945
固有値	2.877	2.136	1.171	1.002
因子寄与率	20.363	18.863	16.121	9.979
累積寄与率				65.326

因子抽出法: 主成分分析　回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法

a. 5 回の反復で回転が収束しました。

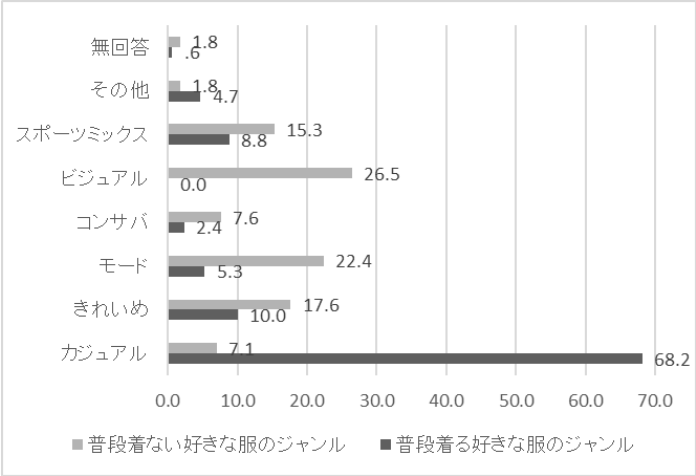
3-3. 衣服、衣服着用に対する好みについて

ここでは、普段着る服や着ないが好きな服などの対象者に関する趣向と、衣服に対する意識や印象について調べた。まず、普段着る好きな服と、普段着ないが好きな服について質問したところ図表 7 のような結果となった。

普段着る好きな服については、「カジュアル」が一番多く 68.0%だった。また二番目に多いのが「きれいめ」(10.0%)、「スポーツミックス」(8.8%) という結果であった。

次に普段着ないが好きな服について質問したところ、先ほど票の入らなかった「ビジュアル」が 26.7%で一番多く、その次に「モード」(22.7%)、「きれいめ」(17.4%) という順だった。ここから、近年のトレンドに左右されている傾向がみられ、また大学生ということもあり、「派手なもの」よりも「落ち着いたもの」が選ばれる傾向にあることが分かった。

図表 7　普段着る好きな服と普段着ないが好きな服の平均値



次に性別によって「普段着る好きな服」に違いがあるのかを見るためカイ二乗検定を行った。その結果性別による有意な差が見られた（χ^2 (6) ＝18.69, p<.05)。男性、女性ともに「カジュアル」なファッションを好むが女性のほうが男性よりも強く好む傾向にある。また「きれいめ」なファッションに関しては女性よりも男性のほうが多い傾向にある。

図表 8　「普段着る好きな服」のカイ二乗検定

	無回答	カジュアル	きれいめ	モード	コンサバ	スポーツミックス	その他	計
男性	1 1.3%	41 54.7%	9 12.0%	3 4.0%	3 4.0%	11 14.7%	7 9.3%	75 100.0%
女性	0 0.0%	75 78.9%	8 8.4%	6 6.3%	1 1.1%	4 4.2%	1 1.1%	95 100.0%
計	1 .6%	116 68.2%	17 10.0%	9 5.3%	4 2.4%	15 8.8%	8 4.7%	170 100.0%

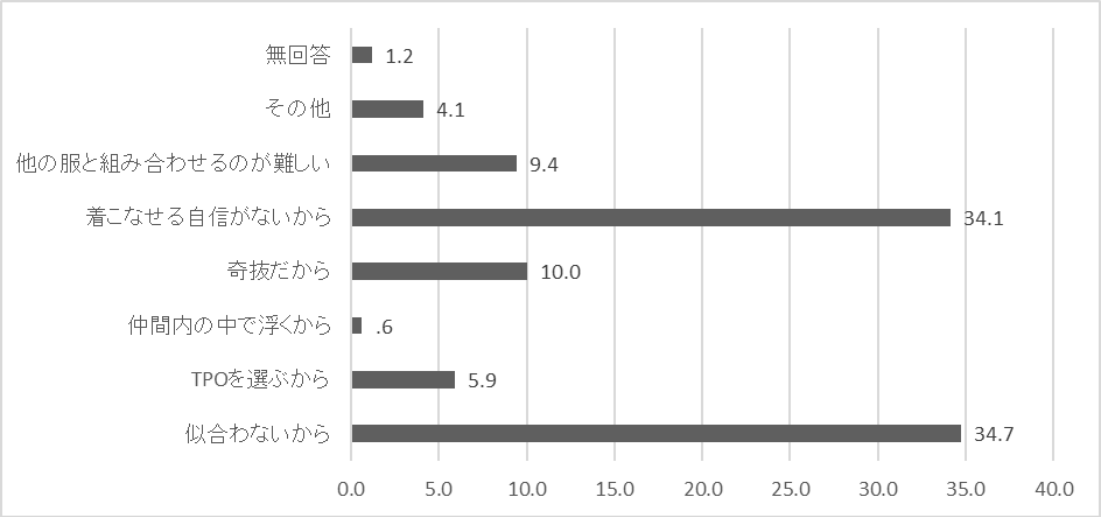
「普段着ないが好きな服」についても同様にカイ二乗検定を行った。その結果性別による有意な差が見られた（χ^2（7）＝34.83, p<.01）。男性のほうが女性よりも「カジュアル」「モード」を好み、また女性は男性よりも「きれいめ」を好む傾向にある。「コンサバ」「ビジュアル」「スポーツミックス」に関してはあまり差が見られなかった。

図表 9　「普段着ないが好きな服」カイ二乗検定

	無回答	カジュアル	きれいめ	モード	コンサバ	ビジュアル	スポーツミックス	その他	計
男性	2 2.7%	11 14.7%	3 4.0%	23 30.7%	6 8.0%	17 22.7%	10 13.3%	3 4.0%	75 100.0%
女性	1 1.1%	1 1.1%	27 28.4%	15 15.8%	7 7.4%	28 29.5%	16 16.8%	0 0.0%	95 100.0%
計	3 1.8%	12 7.1%	30 17.6%	38 22.4%	13 7.6%	45 26.5%	26 15.3%	3 1.8%	170 100.0%

次に、なぜ好きなのに着ないのかを質問したところ図表 10 ような結果となった。

図表 10　好きな服だが着ない理由の平均値

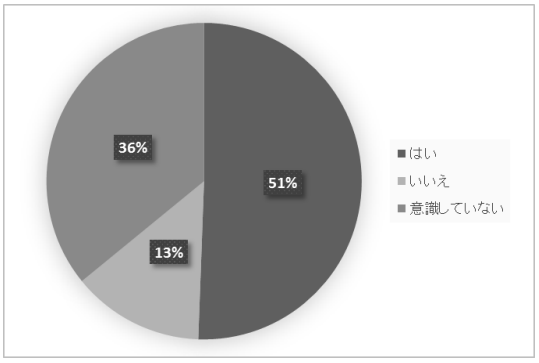


結果として「似合わないから」が一番多く、34. 7％、その次に「着こなせる自信がないから」が 34.1%であった。これらは自分自身に原因があるとする理由であり合計して 68, 8%を占めていた。上記のことから普段着用する衣服の好みと普段着用しないが好きな衣服には自身に対する印象が関係することがわかる。

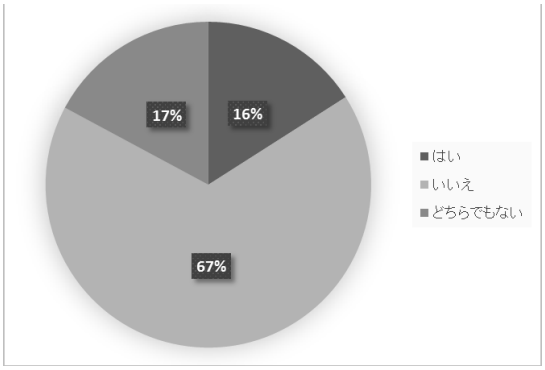
また、上記に続いて「奇抜だから」が 10.0%、「組み合わせが難しい」9.4%、「TPO を選ぶ」5.9%の順の結果となりこれらは、自身ではなく服の持つ印象などが関係しているといえる。ここからも、「派手なもの」よりも「落ち着いたもの」が選ばれることがわかる。その他では「高い」「持っていない」「（アニメや漫画、映画などの）作中で見るのが好き」というものが挙げられた。

次に衣服について「外行き」を意識しているかを質問した。衣服について「外行き」を意識している人は 51%おり、２人に１人は意識しているという結果だった。また、「コスプレ」と「正装」をしたいか質問した。「コスプレをしたいか」という質問に対して「いいえ」を選んだ人が 114 人なのに対し、「機会のある時に正装をしたいか」につては「着たい」が 107 人であった。この結果から正装とコスプレははっきりと意識わけがされていることが考察できる。

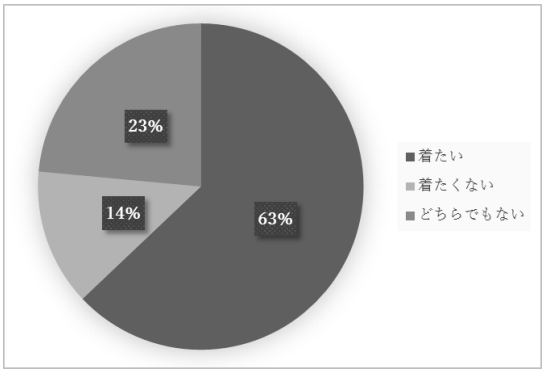
図表 11　「外行き」を意識しているか



図表 12　コスプレをしたいか



図表 13　機会のある時に正装をしたいか



また、「着物を着用したことがあるか」について質問したところ、着用したことがある人が 110 人（65.1%）であった。(N=169)。また、この項目に対して性別間の差があるためにカイ二乗検定を行ったところ 0.01 水準で有意な結果が得られ女性の方が男性に比べ着用経験がある人が多いことが分かった。(図表 14)

図表 14　着物を着用したことがあるかのカイ二乗検定

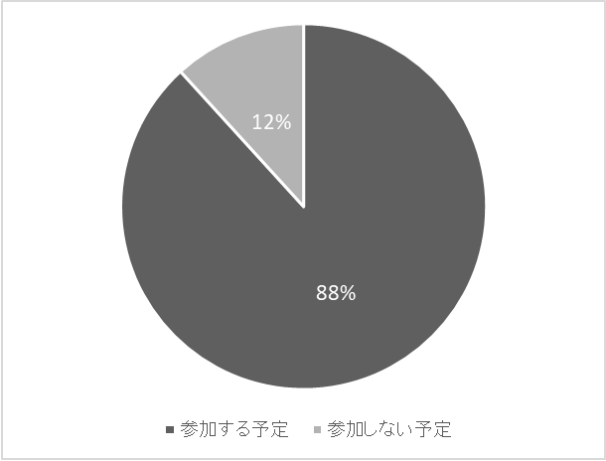
	ある	ない	わからない	合計
男性	31	35	8	74
	41.9%	47.3%	10.8%	100.0%
女性	79	14	2	95
	83.2%	14.7%	2.1%	100.0%
合計	110	49	10	169
	65.1%	29.0%	5.9%	100.0

3-4. 成人式について

大学生が着物に触れる機会が多いと考えられる成人式に対する意識について調べた。

成人式の参加意欲について質問した結果、成人式に「参加する予定」と答えた人は 150 人（88.2%)、「参加しない予定」と答えた人は 20 人（11.8%）であり、ほとんどが参加する予定と考えていることが分かった。(N=170)

図表 15　成人式の参加予定の有無



次に参加する理由と参加しない理由について調べたところ図表 16 と図表 17 のような結果となった。参加理由については「一生に一度だから」85 人（56.7%）が一番多く、全体の半数をしめた。その次に「友達・同級生に会いたいから」が 46 人（30.7%）で多かった。また、「振袖・袴を着たいから」は 4 人（2.7%）だった。(N=150)

図表 16　成人式の参加理由

参加理由	度数	%
一生に一度だから	85	56.7%
友達・同級生に会いたいから	46	30.7%
親に出るよう言われたから	9	6.0%
振袖・袴を着たいから	4	2.7%
日本の文化・伝統行事であり参加すべき	2	1.3%
騒いでみたいから	1	0.7%
予定が空いているから	1	0.7%
その他	2	1.3%
合計	150	100.0%

不参加の理由としては、「めんどくさいから」が 8 人（40%）で一番多く、次に「友達・同級生に会いたくないから」が 5 人（25%）であった。(N=20)

図表 17　成人式の不参加理由

不参加理由	度数	%
めんどくさいから	8	40.0%
友達・同級生に会いたくないから	5	25.0%
予定が合わないから	3	15.0%
興味がないから	2	10.0%
その他	2	10.0%
合計	20	100.0%

次に、「成人式に参加する予定」と答えた人に成人式に着物を着たいかと着ていくかについて質問した。

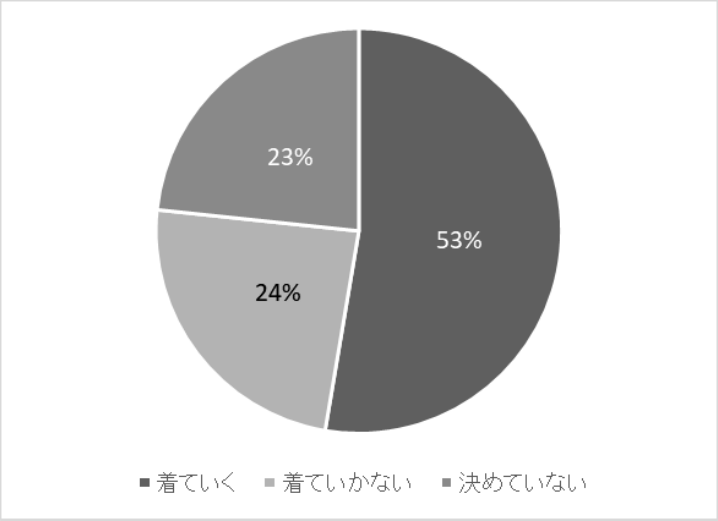
成人式に袴・振袖を着たいかについては、「非常に思う」48 人（32.0%）、「思う」40 人（26.7%）と着ていきたい人が全体の 58.7%という結果になった。また、逆に「思わない」「非常に思わない」の合計は 26 人で全体の 17.3%だった。(N=150)

図表 18　成人式で袴・振袖を着たいか

	度数	%
非常に思う	48	32.0%
思う	40	26.7%
どちらでもない	36	24.0%
思わない	20	13.3%
非常に思わない	6	4.0%
合計	150	100.0%

次に成人式に袴・振袖を実際に着ていくかについては、図表 19 のとおりであり、「着ていく」が 79 人（52.7%）で一番多く、過半数の人が着ていくという結果となった。「着ていかない」に関しては 36 人（24.0%）であった。また、35 人（23.3%）が「決めていない」という結果だった。（N=150）

図表 19　成人式に袴・振袖を実際に着ていくか



また、「成人式に着物を着たいか」に性別間の差があるのか調べるためにカイ二乗検定を行った。その結果、性別による有意な差が 1%水準で有意な差が見られた（$\chi^2(4)=90.69$, $p<.01$）。男性に比べ女性のほうが成人式の際に「着物を着たい」という思いが強いことが分かった。また、男性のほうが「どちらでもよい」という思いが強く、「着物を着たい」という思いが弱いことが分かった。

図表 20　「成人式に着物を着たいか」のカイ二乗検定

	非常に思う	思う	どちらでもない	思わない	非常に思わない	計
男性	0 0.0%	11 16.9%	29 44.6%	19 29.2%	6 9.2%	65 100.0%
女性	48 56.5%	29 34.1%	7 8.2%	1 1.2%	0 0.0%	85 100.0%
合計	48 32.0%	40 26.7%	36 24.0%	20 13.3%	6 4.0%	150 100.0%

次に「成人式に袴・振袖を着ていくか」に性別間の差があるのか調べるためにカイ二乗検定を行った。その結果、性別による有意な差が 1%水準で有意な差が見られた（$\chi^2(2)=106.72$, $p<.01$）。「着ていく」という項目に関して、男性よりも女性のほうが多く、逆に男性は女性よりも「着ていかない」「決めていない」の項目が多くなっている。

図表 21　「成人式に袴・振袖を着ていくか」カイ二乗検定

	着ていく	着ていかない	決めていない	計
男性	3 4.6%	30 46.2%	32 49.2%	65 100.0%
女性	76 89.4%	6 7.1%	3 3.5%	85 100.0%
合計	79 52.7%	36 24.0%	35 23.3%	150 100.0%

上記、2 点のカイ二条検定の結果、女性のほうが男性よりも、成人式において着物への関心が高く、着用する意思を持っている人が多いことが分かった。また、男性においては「決めていない」という意識が強く、成人式においては着物への関心が低く、着用の意思も弱いことが分かった。

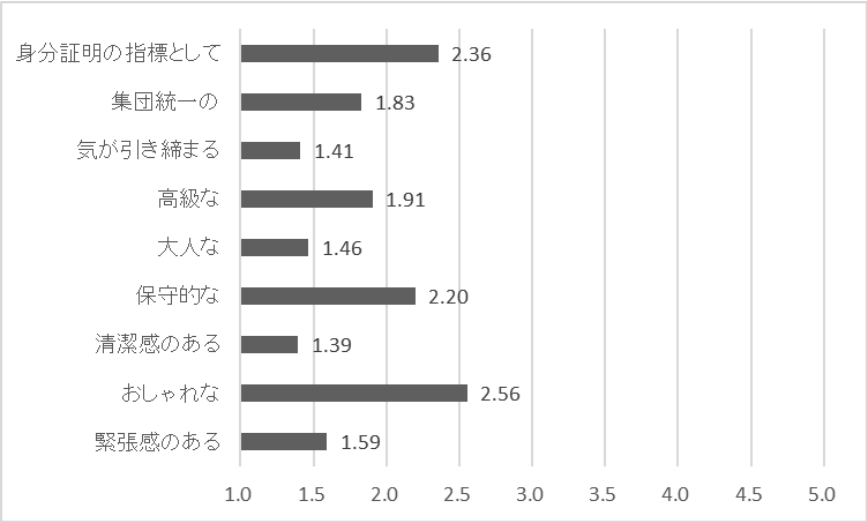
3-5. 衣服の持つイメージと「洋服と和服」のイメージの違いについて

衣服の持つイメージと「洋服と和服」のイメージの違いについて調べるために、印象を中心に調査した。

まず初めに、正装（着物やスーツ、制服など）の印象について 5 段階の SD 法を用いて質問し、それぞれの平均値を算出したところ以下の結果となった（1.0 に近いほど印象が強い）。最も強い印象を持たれたのが「清潔感のある」で 1.39。次に「気が引き締まる」で 1.41 であった。「大人な」が 1.46 であった。印象が一番弱い「おしゃれな」であっても平均値が 2.56 ということで全体的に意識は強い傾向にあることがわかる。

次にこの「正装」に対するイメージがどのような因子を持つのかを知るためにバリマックス回転を用いて主成分分析による因子分析を行った。その結果、3 つの因子に分類することができた。

図表 22　正装に対する印象の平均値



第一因子には、「大人な」や「高級な」といった服による『感覚的印象の付与』に対する因子が高い因子寄与率で抽出された。第二因子には「身分証明の指標として」や「集団統一の」といった服によって『身分』などの指標が付与されるという因子が抽出された。第三因子には「おしゃれな」「緊張感のある」という『服の総合的印象』に関する因子が見受けられ、「おしゃれな」と「緊張感のある」には対になる結果となった。

図表 23　正装に対する印象の因子分析

	感覚的印象の付与	身分的印象の付与	服の総合的印象
大人な	.807	.203	.040
高級な	.735	-.201	.281
気が引き締まる	.684	.296	-.198
清潔感のある	.555	.325	-.239
身分証明の指標として	.024	.812	.020
集団統一の	.110	.800	-.055
保守的な	.223	.586	.090
おしゃれな	.180	.152	.756
緊張感のある	.403	.109	-.596
固有値	2.824	1.368	1.100
因子寄与率	24.718	21.687	12.396
累積寄与率			58.801

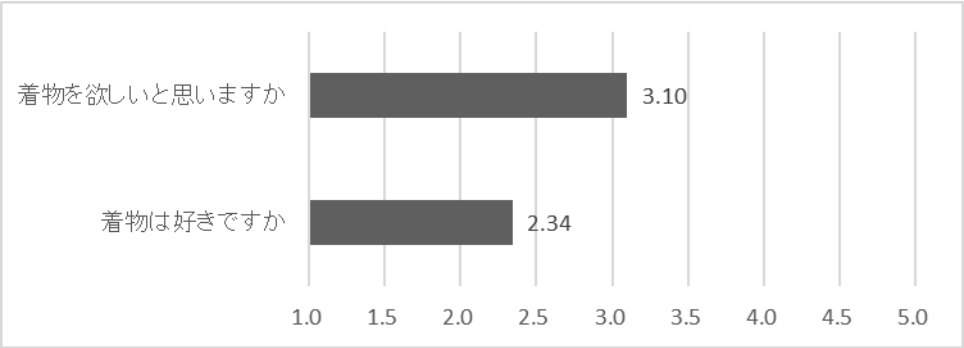
因子抽出法: 主成分分析　回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法

a. 5 回の反復で回転が収束しました。

次に着物という衣服へのイメージについてである。

着物の好き嫌いと着物が欲しいかについて5段階で質問した(平均値が1.0に近いほど強い)。その結果を「着物は好きですか」の平均値は 2.34 であり、「着物を欲しいと思いますか」は 3.10 であった。以上のことから、着物に好きという印象が強いが、着物を欲しいかと聞かれると「どちらともいえない」という印象が強いことが分かった。

図表 24　「着物を欲しいと思うか」と「着物が好きか」の平均値



次に着物の印象について 20 項目を 5 段階の SD 法を用いて質問し、また男女間の差があるかを調べるために対応のないＴ検定を行った（例：質素・華美の場合 1.0 に近いほど質素の印象が強く 5.0 に近いほど華美の印象が強いことする）。

その結果図表 25 のような結果となり、着物において、男女間に有意な差がありつつ、平均値の差が大きかったのは「モノクロ・カラフル」で、男女ともにカラフルというイメージがあったが、女性のほうがより強くカラフルに感じていることが分かった（平均値の差 0.61）。ほかにも「着にくい・着やすい」の項目においても同様で、お互い「着にくい」という印象が強いが書生のほうがより「着にくい」印象を持っている（平均値の差 0.58）。また、ほかにも多くの項目で有意な差がみられた。

逆に性別間に有意な差がみられなかったのは、「重い・軽い」、「地味・派手」、「機能性あり・なし」「二次元・三次元」、「暑い・寒い」、「窮屈・広々」であった。（図表 25 より）

図表 25　着物の印象の対応のないＴ検定

		n	MEAN	SD	t	df	p
質素・華美	男	75	3.93	0.95	-2.25	168	*
	女	95	4.24	0.83			
子供・大人	男	75	4.08	0.93	-3.81	168	***
	女	95	4.54	0.63			
重い・軽い	男	75	2.25	0.95	1.86	168	n.s.
	女	95	1.99	0.89			
かっこいい・かわいい	男	75	2.59	0.99	-2.40	168	*
	女	95	2.96	1.01			
醜い・美しい	男	75	4.31	0.80	-3.75	168	***
	女	95	4.71	0.58			
モノクロ・カラフル	男	75	3.47	1.07	-3.96	168	***
	女	95	4.07	0.93			
地味・派手	男	75	3.43	0.98	-1.51	168	n.s.
	女	95	3.64	0.89			
機能性あり・なし	男	75	3.65	1.11	-0.20	168	n.s.
	女	95	3.68	0.91			
二次元・三次元	男	75	3.35	0.81	-1.39	168	n.s.
	女	95	3.52	0.77			
浮ついた・落ち着いた	男	75	3.79	0.93	-3.50	168	***
	女	95	4.25	0.80			
安い・高い	男	75	4.35	0.76	-3.18	168	***
	女	95	4.68	0.62			
着にくい・着やすい	男	75	2.27	1.21	3.74	168	***
	女	95	1.68	0.82			
暑い・寒い	男	75	2.37	0.97	0.51	166	n.s.
	女	93	2.30	0.87			
日常的・非日常的	男	75	4.28	0.91	-1.82	166	n.s.
	女	93	4.52	0.77			
窮屈・広々	男	75	2.21	1.17	1.50	166	n.s.
	女	93	1.98	0.86			

		n	MEAN	SD	t	df	p
洋・和	男	75	4.64	0.76	-2.03	166	*
	女	93	4.85	0.57			
関東・関西	男	75	3.35	1.01	0.31	166	n.s.
	女	93	3.30	0.91			
俗悪・優美	男	75	4.24	0.82	-2.52	166	**
	女	93	4.52	0.60			
革新的・伝統的	男	75	4.44	0.79	-2.76	166	**
	女	93	4.72	0.52			
正装・平服	男	75	1.91	0.96	3.18	166	***
	女	93	1.49	0.72			

次に洋服と和服のイメージの差を見ていく。対象者にスーツを着た人と和服を着た人の画像を見せ、そのうえで先ほどと同じ 20 項目を 5 段階の SD 法を用いて質問した。印象の平均値の差を見るために対応のある T 検定を行った結果図表 26 の結果となった。

図表 26　着物とスーツの印象の対応のある T 検定

		n	平均値	平均値の差	標準偏差	t 値	自由度	有意確率
質素・華美	スーツ	170	2.61	-1.31	0.99	-11.38	169	***
	着物	170	3.91		1.11			
子供・大人	スーツ	170	4.59	0.18	0.59	2.62	169	**
	着物	170	4.42		0.82			
重い・軽い	スーツ	170	3.01	1.04	1.22	5.58	169	***
	着物	170	1.96		2.04			
かっこいい・かわいい	スーツ	170	1.72	-0.25	0.79	-3.04	169	***
	着物	170	1.96		0.95			
醜い・美しい	スーツ	170	3.78	-0.27	2.61	-1.30	169	n.s.
	着物	170	4.05		0.83			
モノクロ・カラフル	スーツ	170	1.52	-0.87	0.74	-9.46	169	***
	着物	170	2.39		1.14			
地味・派手	スーツ	170	2.12	-0.89	0.83	-8.83	169	***
	着物	170	3.01		1.12			
機能性あり・なし	スーツ	170	2.31	-1.46	0.91	-14.18	169	***
	着物	170	3.77		0.93			
二次元・三次元	スーツ	170	3.42	-0.04	0.97	-0.14	169	n.s.
	着物	170	3.45		3.16			
浮ついた・落ち着いた	スーツ	169	4.34	0.40	0.82	4.20	168	***
	着物	169	3.93		1.10			
安い・高い	スーツ	170	3.54	-0.98	0.83	-12.77	169	***
	着物	170	4.51		0.66			
着にくい・着やすい	スーツ	170	3.42	1.58	1.07	13.84	169	***
	着物	170	1.84		0.96			
暑い・寒い	スーツ	169	2.90	0.45	0.68	5.28	168	***
	着物	169	2.45		0.95			
日常的・非日常的	スーツ	170	2.44	-1.99	1.03	-15.85	169	***
	着物	170	4.44		1.19			
窮屈・広々	スーツ	170	2.49	-0.12	0.87	-1.03	169	n.s.
	着物	170	2.61		1.14			
洋・和	スーツ	170	2.00	-2.71	0.92	-28.68	169	***
	着物	170	4.71		0.63			
関東・関西	スーツ	170	2.49	-0.88	0.81	-8.02	169	***
	着物	170	3.37		0.92			
俗悪・優美	スーツ	170	3.42	-0.51	0.70	-7.29	169	***
	着物	170	3.93		0.94			
革新的・伝統的	スーツ	170	2.69	-1.62	0.71	-17.41	169	***
	着物	170	4.32		0.87			
正装・平服	スーツ	170	1.99	0.28	1.00	3.05	169	***
	着物	170	1.71		0.87			

検定の結果、多くの項目で有意な差が見られた、平均値の差が一番大きかったものが「洋・和」の項目で着物はよりも「和」の印象が強い。感覚的な部分では着物は「伝統的」「非日常的」印象が強く、スーツは「革新的」「日常的」な印象が強いことが分かった。着用感覚の部分では着物は「重い」「着づらい」印象が強く、スーツは「軽い」「着やすい」印象が強いことがわかった。以上のことから着物とスーツの間にはイメージの違いが多くあることが分かった。

また、この検定の中で有意な差がみられなかったのは、「醜い・美しい」「二次元・三次元」「窮屈・広々」の３項目だけであり、これはどちらも「美しく」「三次元的」という印象があり着用感覚である「窮屈・広々」に関しても着るのではなく見る分には差がないことがわかる。

次に「着物を着るとしたらどのような場面で着用したいか」について 8 項目を 1 位から 3 位、「着物を着ている人のイメージ」について 9 項目を 1 位から 3 位、「着物に求めるもの」について 1 位から 3 位で回答してもらった。その中の 1 位のものを用いてみていく。

「着物を着るとしたらどのような場面で着用したいか」については、図表 27 の結果となり、「自分自身の式典で着用したい」が 68 人（41.0%）で一番多く、その次に「日本文化振興の時や日本文化に触れるため」56 人（33.7%）、「冠婚葬祭の場面」28 人（16.9%）であった。この項目では、「式典」などの行事の中で着用したい人が多いということが分かった。(N=166)

図表 27　着物とスーツの印象の対応のあるＴ検定

	度数	%
自分自身の式典で着用したい	68	41.0%
日本文化振興の時や日本文化に触れるため	56	33.7%
冠婚葬祭の場面	28	16.9%
趣味や習い事で着用したい	6	3.6%
コスプレする際	3	1.8%
普段着として着用したい	1	0.6%
仕事着として着用したい	1	0.6%
その他	3	1.8%
合計	166	100.0%

次に、「着物を着ている人のイメージ」については、「古風」という印象が多く 51 人（30.0%）。その次に「優雅」が 45 人（26.5%）、「大人」が 31 人（18.2%）であった。この項目では、着物によって「古風」や「優雅」「大人」といった印象が付与されることが分かった。(N=170)

図表 28　「着物を着ている人のイメージ」の平均値

	度数	%
古風	51	30.0%
優雅	45	26.5%
大人	31	18.2%
かっこいい・かわいい	22	12.9%
豪華	11	6.5%
お金持ち	9	5.3%
派手	1	0.6%
合計	170	100.0%

次に「着物に求めるもの」についてである。これは着用の際にどんな印象を求めるかについての設問である。結果として「和、日本文化的印象」が 79 人（46.5%）、「大人な印象」が 59 人（34.7%）、「優しい印象」18 人（10.6%）であった。このことから、着物を着用する際、着用者は「文化的印象」と「人格的印象」の付与を求めていることがわかる。

図表 29　「着物に求めるもの」の平均値

	度数	%
和、日本文化的印象	79	46.5%
大人な印象	59	34.7%
優しい印象	18	10.6%
派手さ	7	4.1%
力強い印象	4	2.4%
地味さ	1	0.6%
その他	2	1.2%
合計	170	100.0%

続いて、「着物をモチーフにした洋服（着物ドレスやスーツ、カーディガンなど）を着たいか」についてと、「どんな着物をモチーフにした服を着たいか」について質問した。「着物をモチーフにした洋服を着たいか」については「着てみたい」が 89 人（52.4%）であり、「着たくない」は 81 人（47.6%）と半々の結果となった。(N=170)

図表 30　「着物をモチーフにした洋服を着てみたいか」

	度数	%
着てみたい・興味がある	89	52.4%
着たくない・興味がない	81	47.7%
合計	170	100.0%

「どんな着物をモチーフにした服を着たいか」については「スーツ」が 44 人（28.9%）、「ド

レス」36 人（23.7%）、「ワンピース」29 人（19.1%）、「ジャケット」24 人（15.8%）という結果となった。(N=152)

図表 31　「どんな着物をモチーフにした服を着たいか」

	度数	%
スーツ	44	29.0%
ドレス	36	23.7%
ワンピース	29	19.1%
ジャケット	24	15.8%
シャツ	13	8.6%
サマーカーディガン	5	3.3%
その他	1	0.7%
合計	152	100.0%

4.　各結果との多面的検証と結果

「3.調査結果」を用いて多方面から検証する。まず初めに「3-2.特別に対する価値観について」にて因子分析し抽出された「能動的な特別」「文化的概念の特別」「受動的な特別」「場所的な特別」の 4 因子のそれぞれの合計を出し、さらに中央値以上未満で分けそれぞれの因子の「高低」の項目を作成した。

この各因子の高低を用いて「着物のイメージ」に T 検定を行った。その結果、「能動的な特別の高低」と「子供・大人」、「受動的な特別の高低」と「モノクロ・カラフル」に有意な差が見られ意識の「高低」によって差があることが分かった。このことから、「能動的な特別への価値観」が低いほど着物に対しより「大人」な印象を持ち、「受動的な特別への価値観が」低いほど着物に対しより「カラフル」な印象をもつことがわかった。

図表 32　「能動的な特別の高低」と「子供・大人」の対応のない T 検定

「能動的な特別の高低」と「子供・大人」

		n	MEAN	SD	F 値	t	df	p
子供・大人	高い	104	4.18	0.88	4.50	-3.18	168	**
	低い	66	4.58	0.61				

図表 33　「受動的な特別の高低」と「モノクロ・カラフル」の対応のない T 検定

「受動的な特別の高低」と「モノクロ・カラフル」

		n	MEAN	SD	F 値	t	df	p
モノクロ・カラフル	高い	89	3.58	1.00	0.02	-3.00	168	**
	低い	81	4.05	1.02				

次に「特別意識」の高低によって「成人式の参加意欲」や「着物の着用意欲」に差があるのかを調べるため対応のないＴ検定を行った。その結果、「能動的な特別の高低」と「成人式で着物を着たいと思うか」、「受動的な特別の高低」と「成人式の参加意欲」に有意な差が見られた。このことから、「能動的な特別への価値観」が低いほど成人式で着物を「着たい」と強く思い、「受動的な特別への価値観」が低いほど「参加意欲」が強いということが分かった。

図表 34　「能動的な特別の高低」と「成人式で着物を着たいと思うか」

能動特別高低		n	MEAN	SD	t	df	p
成人式で着物を着たいと思いますか。	高い	87	2.57	1.16	3.41	148	***
	低い	63	1.94	1.09			

図表 35　「受動的な特別の高低」と「成人式の参加意欲」

受動特別高低		n	MEAN	SD	t	df	p
成人式の参加意欲	高い	104	2.45	1.21	3.772	168	***
	低い	66	1.76	1.11			

5. まとめ・考察

上記の結果より、着物は洋服に比べ、「華美」で「伝統的」な衣服という印象が強いことが分かった。また、着用面では「重い」「着づらい」「機能性がない」というマイナスな印象が強かった。そして日常という項目では「非日常的」という印象が強かった。

このことから、大学生にとって着物とは「非日常的」な衣服であり着用面でマイナスな印象があることから、これが着物離れの要因といえるだろう。

また、「着物を着るとしたらどのような場面で着用したいか」の際に「自分自身の式典」や「冠婚葬祭」という項目を選ぶ人が全体の 56.9%いたことからも着物は、普段着よりもそういった「式典」で着たい、着るものであるという認識が強いことが分る。そして、これによって「非日常的」という印象が生じていると考察できる。

次に、着物とスーツの印象の設問で性別間の差が多く見られたのは、男女によって着物の着用経験の差があることなどが関係していると考察できる。

特別に対する価値観の高低と様々な意欲・関心に関しては、予想を反する結果が多く、ここを明らかにすることが今後の課題といえるだろう。

「着物をモチーフにした洋服」につていては好印象な結果だった。また、「どんな、着物をモチーフにした服を着たいか」の設問では「ドレス」のような普段着ないであろう「非日常」の衣服も上位に挙がったが、その他多くは「日常的」に着る機会のある衣服が上位をしめていた。このことから、着物のマイナスイメージや「非日常的」というイメージはこういった工夫やリメイクした衣服によって改善されるのではないだろうか。

最後に、着物には結果からもわかるように固定イメージ、例えば「非日常」や「特別な日に着るもの」といったものがあり、このイメージは決して悪いイメージとは言えないが、これが「着物離れ」の一要因になっていると強く認識した。今後、この固定イメージについてや価値観との関係性などを調査したい。

6. 引用・参考文献

- コトバンク　「着物」　精選版 日本国語大辞典の解説より https://kotobank.jp/word/%E7%9D%80%E7%89%A9-475907 （2020 年 2 月 28 日観覧）
- にほんご日和「日本文化の象徴！着物の歴史や起源を解説します」(2019/08/07) https://www.nihongo-biyori.com/culture/837/ （2020 年 2 月 28 日観覧
- 有限会社きものと宝飾社「着物市場規模に関する調査 2016」(2016/03/25) http://status-marketing.com/20160325-604.html （2020 年 2 月 12 日観覧）
- 有限会社きものと宝飾社「着物需要の変化：「仲人」の衰退と「エコ」という理念」（2019/04/23） http://status-marketing.com/20190423-4230.html （2020 年 2 月 12 日観覧）
- 「着物関連市場における新たなセグメントとその特性の分析」(吉田満梨,2013 年「未来の京都創造研究事業」研究成果報告書 79-104 2014 年 5 月） http://www.consortium.or.jp/wp-content/uploads/seisaku/5137/2013kimono.pdf (2019 年 12 月 12 日観覧）

脚注

[i] コトバンク　「着物」　精選版 日本国語大辞典の解説より https://kotobank.jp/word/%E7%9D%80%E7%89%A9-475907 （2020 年 2 月 28 日観覧）

[ii] にほんご日和「日本文化の象徴！着物の歴史や起源を解説します」(2019/08/07) https://www.nihongo-biyori.com/culture/837/ （2020 年 2 月 28 日観覧）

[iii] 有限会社きものと宝飾社「着物市場規模に関する調査 2016」(2016/03/25) http://status-marketing.com/20160325-604.html （2020 年 2 月 12 日観覧）

[iv] 有限会社きものと宝飾社「着物需要の変化：「仲人」の衰退と「エコ」という理念」(2019/04/23) http://status-marketing.com/20190423-4230.html （2020 年 2 月 12 日観覧）

[v] 「着物関連市場における新たなセグメントとその特性の分析」(吉田満梨,2013 年「未来の京都創造研究事業」研究成果報告書 79-104 2014 年 5 月） http://www.consortium.or.jp/wp-content/uploads/seisaku/5137/2013kimono.pdf （2019 年 12 月 12 日観覧）